

#### 少年野球随想 4

「ミーティング」

荒井 義一

久しぶりに高校時代の同期会に出た。  
自己紹介を兼ね“今、何をやっているか”  
という話を話せ。と順に聞いていたら

ゲートボール、グラウンドゴルフ、庭いじり  
散歩、読書、音楽鑑賞、旅行……

といかにも年寄りじみたことばかり言うので  
“活”を入れてやろうと、私は大声で

「少年野球の監督！」

と言ったら、皆「ほう……」「とビックリ  
したような、バカにしたような声をあげた。

その内、無礼講となり、席は乱れ、東京・  
小岩の小学校の校長を定年退職したYが、  
ビール片手に私の脇へ来て

「荒井、小学校で一番人気のない先生を  
知っているか……」「

「?……」

「校長だよ……」

「なんで……」

「毎週の朝礼で、長々とくどくどと訳のわ  
からないことを話すからさ。子供たちは、  
誰も聞いちゃいない。早く終わればいいなあ、  
と思っている。昔から言われているように

“テールスピーチと女のスカートは短かけ  
れば短いほど良い”というようにミーティン  
グは短くやれよ……」

「なるほど」

「最初に5分とか、10分とか時間を切って  
話せ。5分間ぐらいなら聞いてやるつと子ども  
たちは、きき耳を立てるからさ。それと二つ  
とか三つとか言いたいことを断定しろ。

これが子どもたちを引きつけるコツだ。」  
そしてこつ付け加えた。

「説教はやめろよ。抽象的な言葉は吐くな。

日本語にはどっちつかずのあいまいな言葉がある  
相手は小学生だ。解りやすく話せ。そして話の  
合間にユーモアを入れる。この人の話は面白い  
なあと思わせるのだ。……」

これだけ言ってYは腰をうかせ

「ああ、そうそう、これが肝心だ。ミーティ  
ングは試合の勝った時にしろよ。負け試合のあ  
とは子どもたちは早くグランドから引き上げた  
いのだ。意気が消沈しているときに、何を話し  
てもムダだ。……」

\*

因みにYは市川のK高校の野球部で、落語  
研究会にも入っていた。さすがに教育者でその  
体験からの話は非常に参考になった。

同期会で一万円の会費は高いナと渋々出席  
したのだが

“たまには飲みたくない酒も飲むものだ”  
と帰りの京成電車でそう思った。

(平成18年3月2日脱稿)